

雲北陵月報

No. 418

令和2年6月30日
出雲北陵中学高等学校
土江明文社 印刷

学校再開

（コロナと向き合いながら段階的にスタート）

5月25日から、本校は通常授業を再開した。臨時休校中には、課題を配布し、5月12・13日は中高とも学年ごとに約一時間の分散登校日を設けた。そして緊急事態宣言の解除後、18日から22日までは、同じく学年ごとに分散登校とし、午前中授業を行えるようになった。この期間は少人数クラスを編成しての授業とした。各クラスの入り口に消毒液を置き、窓を開け放つなど換気にも留意し、一席ずつ空け、ソーシャルディスタンスを意識した授業はいまだ経験のないことだった。

その後、5月25日からは通常授業に戻ったが、今でも引き続き授業後には、机、椅子はもちろん、入り口の取っ手、照明のスイッチなど、手が触れたものについては、全て消毒を行っている。また、熱中症が懸念される中のマスク着用も大変になり、新しい生活様式に慣れることにも時間がかかりそうである。

6月も終わりを迎えたが、今後も遅れ



教員による消毒作業

た学びの時間の確保に努めながら、懸念される第二波、第三波への対策を考えていきたい。

授業日数の確保について

教務部長 尾添 喜行

新型コロナウイルスが猛威を振るい、令和2年度は波乱のスタートとなった。本校では入学式を終え、一学期が始まりかけた4月16日から臨時休校となった。休校期間中は、一週間おきに各教科から予習を含めた課題を出したが、やはり対面授業でないと、生徒も教員も十分なことできない。分散登校を経て、5月25日から通常授業を再開するまでに、平日23日分、土曜日3日分の出校日が失われた。

この授業日数を確保すべく、学校行事の中止・延期を考慮したうえで、年間授業日数、年間学校行事を再編成している。これによって夏休みが短くなったり、本来休校日である第



分散登校時の授業の様子

保健室から

熱中症に気をつけましょう！

学校が再開され、約1ヶ月が経とうとしています。新しい生活様式にも慣れてきた頃でしょうか。最近は暑い日も増え、熱中症も懸念されています。今夏はこれまでとは異なる生活環境下であることから、十分な感染症対策を行いながら例年以上に熱中症に気をつけることが重要です。

新しい生活様式における熱中症予防のポイント

- ①暑さを避ける
・エアコン等を利用し、部屋の温度と湿度をこまめに調整する。
・暑い日や時間帯は無理をしない。
・急に暑くなった日等は特に注意する。
・涼しい服装にする。
- ②適宜マスクをはずす
・屋外で人と十分な距離を確保できる場合にはマスクをはずす。
・マスクを着用している時は、負担のかかる作業や運動を避ける。
- ③こまめに水分補給をする
・のどが渇く前に水分補給。
・大量に汗をかく場合は塩分も摂取する。
- ④日頃から健康管理をする
・毎日、検温・健康チェックをする。
・体調不良の場合は無理せず自宅で静養する。



市民文化部長 藤原英博様より賞状と記念品の授与

- ⑤暑さに備えた体力作りをする
・暑くなり始めの時期から適度に運動する。
・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度の運動を毎日30分程度行う。ただし、水分補給を忘れず、無理のない範囲で。

井上美代先生 出雲市合併15周年記念特別功労者表彰受賞

去る6月1日、本校にて井上美代教諭が出雲市より、出雲市合併15周年記念特別功労者表彰を受けた。

井上教諭は、平成23年、24年の国民体育大会なぎなた競技において団体試合で二連覇。また、世界なぎなた選手権大会において二大会連続で世界一を達成するなど、我が国のなぎなた界を牽引するとともに、本市のスポーツの普及・振興にも尽力し、市民に大きな夢と感動を与えたと評価を受け、この度の受賞となった。また今回の表彰では、本校音楽コース顧問の片寄哲夫先生も同賞を受賞され、誠に喜ばしいことである。

なお、授賞式は当初3月の予定だったが、新型コロナウイルス感染予防のため本庁での授賞式がとりやめられ延期となっていた。

部活動再開

一部代替大会の実施が決まる

5月25日から待ちに待った部活動が再開した。当初は、平日18時下校、休日の練習は中止とし、その後、徹底した消毒作業を行ったうえで段階的に練習時間を増やし、6月中旬には通常練習が可能となり、活動できることを生徒とともに喜び合った。

しかし、高校関係の大会においては、島根県総合体育大会並びに島根県吹奏楽コンクール、合唱コンクールなどが軒並み中止となった。ただし、各競技団体の一部で代替大会の開催方針が決まっている。その中から、7月16日からの代替大会が決定した硬式野球部の近況を聞いた。

監督 畑 宗一郎

5月25日より、時間の制約がありながらも、再びグラウンドで元氣一杯な選手達と野球ができることをとても嬉しく思います。各種全国大会及び地方大会の中止が相次ぐ中、高校野球では代替大会の開催が決定しました。開催にあたり、賛否両論あると思いますが、選手達の活躍の場が持てることに感謝の気持ちで一杯です。

3年生は6名と少ないですが、北陵高校野球部で培った心の变化「『変心』を存分に発揮してくれることを期待しています。大会までの一日、一試合、一球を大切に、選手一同の『変心』が応援してくださる方々の『心』に届くよう精進していきます。」



主将 飯塚 一基(34期)

新型コロナウイルスの影響により、約一ヶ月の間十分に練習ができなかったのも、部活動の再開はとても嬉しく思いました。しかし、私達3年生は「甲子園」という憧れの舞台に行ける最後のチャンスである夏の大会が中止となりました。正直、約二年半の間、何のために練習してきたのだろうと思うこともありました。逆に私達が過ごした期間はとても内容の濃い2年半であると感じています。引退まで、長くても約一ヶ月ぐらいしか野球ができません。野球ができることに感謝し、残りの期間を全力で打ち込みたいと思います。



進路について

進学『3年生進学希望者の心構え』

新型コロナウイルス感染症の流行により、進学希望の皆さんは受験について様々な不安を感じていることと思います。先の見えにくい状況ですが、今

できることを確実にやっていきましょう。重要な情報があれば担任の先生を通じて皆さんにお伝えします。現在のところリアルオープンキャンパスを自粛している学校が多いようですが、志望校のHPをこまめにチェック



進路説明会の様子

し、ウェブオープンキャンパス・相談会の機会があればぜひ利用して情報を集めてください。

今後は、進路決定に向けて主体的な取り組みが大切になります。入試対策はもちろん、受験に向けての様々な手続きも自分でやっていかなければなりません。その上で、周囲の人達との連携が一層重要になります。「ホウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)」を意識して、保護者、担任や進路担当の先生方としっかりコミュニケーションを取りながら、納得のいく進路決定を目指しましょう。

(進学指導部長 岡 由美子)

就職『夢を叶えよう』

今年の企業の高卒求人は、新型コロナウイルス感染症拡大により、全国的に求人数は減少傾向にあります。市内の企業に高卒求人状況を尋ねてみても、採用を減らす企業は少ないとは言えません。逆に昨年と変わらぬ求人数を掲げる企業もあります。

現在、就職指導部では、就職希望の3年生と面談を行い、保護者の方とは『就職ノート』を用いて就職指導部との連携を図っています。就職活動をひたむきに行う生徒の皆さんと、熱心にサポートされる保護者の方々とを本校の教職員は丸となって支援します。

生徒の皆さんは、次の三つを心がけ日々の生活を過ごして行きましょう。

①予習・復習を怠らず授業に臨む。

②掃除や与えられた仕事に責任を持って取り組む。

③自分を大切に、友達や保護者の方への感謝の気持ちを持つ。

きつと皆さんの弛まぬ努力が就職内定へ繋がると信じています。

(就職指導部長 春日啓伸)

高校生徒総会開催

時 6月24日
於 視聴覚教室

この度、延期していた生徒総会を執行部、専門部委員長、副委員長、各クラス代表1名(学級委員)で開催しました。

今年度の生徒会スローガンは

『不撓不屈』

(『倦まず 弛まず 成し遂げる』)

コンセプトは、皆が一致団結し、今を乗り越え、わたしたちの伝統を築き上げようです。

新型コロナウイルス感染症予防のため様々な学校行事、生徒会行事が中止になったり、延期になったりしましたが、できることが限られる中ですが、執行部を中心に、皆で協力して例年以上に思い出に残る活動をして行きたいと思っています。



学校運営評議委員会委員決定

今年度の委員は左記の皆様です。一年間よろしく願っています。

○委員長(再任) 吉田 明弘 様

(神宮寺住職・島根県なぎなた連盟副会長)

○副委員長(再任) 渡部 良治 様

(出雲歌舞伎むらくも座座長)

○委員(再任) 小村 貞雄 様

(川跡地区自治協会の会長)

○委員(再任) 園山 博良 様

(鳥巣地区自治協会の会長)

○委員(新任) 福田 康伴 様

(本校高校PTA会長)

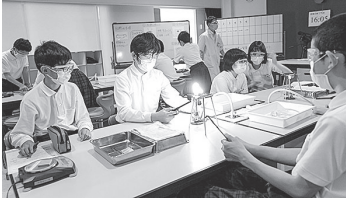
7月の行事予定について

7/2(木)	㊥習熟度テスト(1・2・3年)
3(金)	球技大会中止・壮行式中止
5(日)	㊤進学模試(1・2・3年)
10(金)～14(火)	㊤期末試験
11(土)～14(火)	㊥期末試験
12(日)～15(水)	高校地区PTA中止
17(金)	㊥1学期末保護者会中止
20(月)	人権・同和教育HR(高1・2年)
29(水)	㊥オーストラリア語学研修旅行説明会
31(金)	1学期終業式

中学校

出雲科学館理科学習(中学2年)

5月29日(金)、出雲科学館において「物質どうしの化学変化」のテーマで理科学習が実施され2年生が取り組んだ。1時間目はサイエンスホールにおいて、まず100mホース内で水素と酸素の混合気体を爆発させ、水が発生する実験、ダイヤモンドが燃焼して二酸化炭素に変化する実験、ドライアイス内でマグネシウムが燃焼する実験などを観察した。その後、そのしくみを原子や分子モデルで説明を受けた。いずれも生徒の興味関心を引くものであった。



2・3時間目は3人一組の班毎にマグネシウムを燃焼させ、結びつく酸素の質量との比を調べる実験を行った。ガスバーナーの扱い方、電子てんびんの使い方、薬品の測りとり方、測定結果のグラフ化、質量比の関係性の考察など一連の学習をすることができた。生徒は班毎に協力し合い、積極的に取り組み、実りある理科学習ができた。

朝読書風景

本校では、各クラスに約200冊の文庫を揃え、朝礼後の8時40分から、担任教員と一緒に読書をしている。

朝読書で読む本は、著名作家のもの、古典文学、角川つばさ文庫、高校入試に取り上げられた小説などであり、今年度は新学期開始早々に中断していたが、すでに5冊を読み終えた生徒もいる。朝読書は、文章のおもしろさを味わうのももちろんだが、集中力を高めるにも効果的である。

新入生の一人は「小学校でも朝読書はありましたが、家から持ってきたものや図書館から借りたものでした。種類の豊富なことで読みものの範囲が広がりました。内容も少し難しいものがあるのがまた楽しいです。本が大好きなので、もっともっと読んでいきたいです」と話している。全員で行う朝読書の習慣を今後も続けていきたい。



中学校生徒総会

時 6月16日
於 北陵ホール



「三密」を避けるため、執行部、専門部委員長、副委員長、各クラス代議員2名が出席し、生徒総会を開催しました。

まず昨年度の決算報告、今年度の予算案について審議、承認されました。続いて、各委員会の目標・活動の計画が示されました。各委員会の目標は次の通りです。

《生徒会執行部》
「思いやりあふれる中学校にする」

《各専門委員会》

○体育委員会

「楽しく元気にスポーツができる環境をつくろう!」

○文化委員会

「文化祭を全校生徒で盛り上げる全員が本に興味を持てる環境に」

○環境委員会

「みんなで協力して活動に取り組み、よりよい環境をつくる」

○生活委員会

「一人一人がルールを守って先生も生徒もより良くすごせるような活動をする」

ほくりよう橋も衣替え

この度、中学校と高校を結ぶ「ほくりよう橋」が衣替えをした。平成8年に中学校が開校した当時は、既存の2箇所に橋があったが、中高の授業を兼

務する教員や中学生徒の授業などの行き来を考え、平成12年に新設された橋である。

今回は、欄干の補修作業を行ったが、真っ赤に塗り直された橋は、木々の緑に鮮やかに映え、生徒も職員も気持ちよく行き来している。



中学校部活動の状況

中学副校長 高橋 豊

4月に、中体連主催の全国大会やブロック(中国)大会、県大会の中止が決まり、5月には出雲市総体も中止が決定し、中体連主催大会はすべて開催されなくなっていました。また、文化系のコンクールや行事の多くも中止となりました。しかしその後、各競技団体や指導者有志により、代替大会等開催に向けて努力がなされ、本校に開催する運動部は、主に8月中旬に市規模での大会や交流試合等が開催されることになっています。関係者の皆様には、ご配慮いただき大変感謝しています。

3年生にとっては、有終の美とまでは行かないかもしれませんが、この状況を理解しつつ、少しははじめがつかものと思います。また、3年生はいつもより長く活動することになります。暑さに負けず頑張りたいと思います。

作品と研究

チャンスに変える

卓球部主将 三村 悠斗(34歳)

私達にとって最後のインターハイが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまいました。昨年8月のインターハイ後に新チームとなつてから、県新人戦、中国選抜で団体優勝し、個人戦においても全日本選手権ジュニアの部でベスト8に進出する等、団体戦・個人戦ともに成績が上昇してきた矢先に大会が次々と中止となり、当初は高めてきたモチベーションをどこにぶつければ良いのか分からなくなつてしまいました。私達のチームは「全国の表彰台」を目標に日々厳しい練習に取り組んできました。チームワークや個々のポテンシャルは、全国入賞を経験してきた歴代の先輩方に劣らない自信がありました。自分達の実力を発揮する舞台がなくなつてしまったことは、心にぽっかりと穴が開いてしまったような感覚になりました。

現在も新型コロナウイルスがいつ終息するのかわからない状況が続いており、今後の大会も開催されるかどうか不透明な状況です。しかし、いつまでもネガティブな気持ちを引きずつても先には進めません。今私達にできることは、新たな目標を定めて、はじめの一步を踏み出すことです。卓球にはシーズンオフがなく、卒業するまでにまだ大会があります。また卓球部の三年生は、高校卒業後も大学で卓球を続ける予定です。今までできなかった技術練習やフィジカルトレーニングにしっかりと時間をかけて取り組み、少しでもレベルアップし、来るべき試合に備えることしか私達にはできません。今だからこそライバルに追い付けるチャンス、差をつけるチャンスだと思つて時間を有効に使い、今後の試合に向けて最善の準備をしていきたいと思ひます。

ただ日本一になるだけではなく

なぎなた部主将 森本 あか音(35歳)

私達なぎなた部の目標は「日本一」です。しかし、今回の新型コロナウイルス感染症拡大のため全国大会が中止となつたことで目標を達成するチャンスが無くなつてしまいました。悔しく、残念な思いもありますが、今回のことで日本一になるためだけに部活動をしていたのではないと気づかされました。

私は井上先生に掛けていただいた、「ただ日本一になるだけではなく、誰にも愛される選手になりなさい」という言葉が心に残っています。私が思う愛される選手とは、人の心を動かせるような人間力、影響力のある人だと思います。なぎなたは、人が勝敗を判断する競技です。そのため、入学後からずっとなぎなた部員として、どのような人物であるべきなのか考えてきました。この考えてきた時間は稽古をしてきた時間よりも長いのですが、決して無駄なことではありません。それは、人間力を高めるために必要なことだからです。今回の大会中止により、技術面よりも今までやってきた取り組みや姿勢・人間力が問われるのではないかと感じています。

また、これまで私達は恵まれた環境の中で稽古することができていました。毎日使用できる道場があり、全国トップクラスの卒業生の先輩方や先生から指導していただくなど、何不自由なく稽古できることが当たり前でした。今、思うように稽古ができなくなり、どれだけ自分達が贅沢であったのかを心から実感しています。これまで支えてきてくださった方々に「日本一」という結果で感謝の気持ち伝えることはできなくなりました。しかし、結果以上のものを感じてもらえるような姿勢で稽古をしていくことで、なぎなた部のあるべき伝統を先輩に伝えていけるよう、これからも努力を続けたいと思います。

これほど悔しい思いをするとはそうない

ソフトテニス部主将 奥井 寛太(35歳)

全国選抜大会出場に届きそうなところで勝ちきれなかった中国選抜大会の後、先生がかけてくださった言葉。そこから夏に向けての気持ちが変わったのだと思う。

一年生、二年生の頃、インターハイで戦う先輩方の姿を見て、自分も一年後、二年後にそうなっていたと思った。ただ、団体戦は県総体決勝で惜しくも敗れることが続き、インターハイ団体出場を逃す数年間だった。先輩方の気持ちも背負い、今年こそはと誓った。秋の県新人戦で団体優勝。その後、中国選抜で惜しくも敗れたが、その悔しさを糧に夏のインターハイを目指した。チームの士気、状態ともに上がった。今年はできる。そう思った。

しかし、インターハイは中止になった。インターハイに向けてやりたかったこと・どこまでできるか力を試す。

・チームで最高の瞬間を共有する。

・北陵らしいソフトテニスをすること、先生方への感謝の思いを伝える。

・ここまで支えてきてくださった方々に、気持ちの入ったプレーを見ていただく。それらの機会をなくしてしまったことはやはり悔しい。でも中国選抜大会では先生の言葉を思い返す。この悔しさは、また強い気持ちに変えられる。

当たり前のように力を試す場を経験できていたこと。一緒に目標を目指すチームに出会えたこと。先生方から、今の場だけでなく、生きていく中で支えとなる考えを教えていただいたこと。周りの方にやりたいことをできるよう支えていただいたこと。

この数々のことへの感謝も、この悔しさを知った分、より実感できた。

「この経験をしてよかった」とは、今はまだ思えない。しかし、貴重な経験だと思ふ。今まで活動を頑張ってきた証として、これを次に生かせるようになった。

インターハイがなくなつて思うこと

女子バスケットボール部主将 糸賀 千珠(35歳)

私達、女子バスケットボール部はインターハイに出場することを目標に、毎日一生懸命練習をしてきました。しかし、新型コロナウイルスの影響で目標にしていたインターハイが中止となり、とても悔しいと思います。

私達は目標に向け日々の練習を試合を想定しながらやりました。もちろん辛い練習もありましたが、同じ目標を持つて頑張る仲間と支え合うことで乗り越えていくことができました。

先生が「人生には三つの坂がある」と話してくださいました。上り坂、下り坂、そしてまさかです。私達は県新人戦四位からのスタートという下り坂からの始まりでした。リベンジを決意していました。が、まさかの「インターハイが中止」した。このように私達はこれまでに二つの坂を経験しました。あと残っているのは上り坂だけです。三年間の部活動を通して、一生懸命練習すること、感謝の気持ちを忘れないことの大切さを改めて学ぶことができました。そして辛いことも一緒に乗り越えてくれる仲間を持つこともできました。これから先、楽しいことも辛いことの方がたくさんあると思いますが、ここで得たものを生かして上り坂を上っていくと思います。



今月の1枚

「艶やかに」

山根 七海(31歳)